

イアンサ . S . ライズリー RI会長テーマ  
 『ロータリー：変化をもたらす』  
 2820地区スローガン  
 『未来へチャレンジ』



2017~2018年度  
 会長 大山 岳夫  
 幹事 加部東孝浩

前回の例会報告

第2147回例会9月21日(木)

於・例会場 PM 0 : 30~1 : 30

- 点鐘 大山会長
- ロータリーソング “我等の生業” 斉唱
- お客様紹介 伊藤委員長  
 ・高橋資明様 (ゲストスピーカー 大洗南小学校校長)
- 出席報告 関根委員長

日付	出席	欠席	メーク	出席率	天気
9月14日	22	3	1	88.46%	晴

- 幹事報告 加部東幹事
  - ・幹事メモの報告
  - ・10月のプログラム
    - 5日 卓話「米山奨学委員会」
    - 12日 卓話「那須憲治会員」
    - 19日 ガバナー公式訪問2週間前
    - 26日 卓話「鏡淵 洋会員」

- 会長の時間 大山会長  
 45周年事業の準備を始めます。また、ガバナー公式訪問、ライラの準備も重なり忙しくなりますが、よろしく願います。

- 卓話「南小学校の特色ある教育活動について」  
 大洗南小学校校長 高橋資明様

南小学校は、平成28年4月に旧大貴小学校と旧夏海小学校の統合に伴い開校した2年目の学校である。校舎は南中学校の敷地内に建ち、空中通路(ガレリア)によって小中学校を互に行き来できるようになっている。現在、南小児童246名と南中生徒149名が、同じ敷地内で学校生活を送っている。



1 南小の教育目標について

一人一人のよさを生かし、自主性・創造性・協調性に富んだ 未来を拓く児童の育成に努める  
 [目指す児童像] 夢や希望をもち、自分に自信がもてる児童

[目指す教師像] 子供たちの夢の実現を目指して、精一杯取り組む教師

[目指す学校像] 誰もがよさを生かして、生き生きと活動する学校

2 開校へのあゆみについて

◇児童数の減少

旧大貴小学校は、1876(明治9)年開校で創立139年、卒業生は5571名、

また、旧夏海小学校は、1874(明治7)年開校で創立141年、卒業生は3324名で、両校とも歴史と伝統のある学校であった。

しかし、年々児童数の減少が進み、約50年前である昭和35年当時の児童数は、大貴小は738名、夏海小は371名であったが、閉校の年である平成27年には、大貴小は207名、夏海小は64名と、50年前のそれぞれ、4分の1、6分の1の児童数となってしまった。この少子化の傾向は大洗町に限ったことではなく、他市町村においても同じ課題が生じている。

◇大洗町における小学校のあり方が検討される

平成20年2月、「大洗町における小学校施設のあり方」に関する意識調査研究が行われる。祝町小、磯浜小、大貴小、夏海小と4つあった小学校の今後のあり方が協議された。そして南小よりも一足早く、平成24年4月、祝町小と磯浜小が閉校し、新たな学校「大洗小」が開校した。

南小新校舎(当時は校名はまだ決まっていなかった)の基本構想・基本設計の策定は、平成24年7月から平成25年10月にかけて行われた。小谷隆亮町長は、新校舎の基本コンセプトとして、「効果的な小中連携教育ができる教育環境」を強く打ち出された。「小学生と中学生が共に学び合い、学校生活を送る。また、小中学校の教員が一つになり、効果的な教育を展開する。」南小の開校に当たっては、このような新しい学校づくりを進めていくこととなった。平成27年3月から新校舎の建設が始まり、平成28年3月に完成した。

新しい学校の校名や校章、校歌、PTA組織、教育課程等については、「大貴小学校・夏海小学校統合準備協議会(平成26年7月から平成28年3月)」を設置し、そこで話し合いが進められた。

校名については、公募を実施し（平成27年9月から10月）、統合準備協議会で候補を3つに絞り、平成27年12月11日に小谷町長へ提出した。そして「大洗町立南小学校」に校名が決定した。南中学校と同一の学校名とすることで一体感・統一感が生まれること、また、小中連携・将来の小中一貫教育に向けてふさわしい名前であることが、決定の理由となった。

校章については、校名と同じように公募を行った。統合準備協議会で候補を絞り小谷町長へ提出した。大貫小6年生の塚本京子さんと夏海小2年生の米川遥海さんがそれぞれデザインしたものを基に、南中教諭森江邦和先生が補作者として加わり完成したのが現在の校章である（学年等は平成27年度）。「南小」という校名を中心に、大洗の力強い波と町の鳥「かもめ」、町の花「ツツジ」が校名を囲むように描かれ、また、太平洋の遙か彼方から、輝く太陽が昇る様が描かれている。大洗町の新しい学校のスタートを象徴している校章が完成した。



校歌については、作詞はわが国の代表的な詩人である谷川俊太郎先生、作曲は世界的に活躍され、水戸に縁のある池辺晋一郎先生によるものである。歌詞については、当時の大貫小と夏海小の子どもたちに、新しい学校ができるに当たってどんな学校にしたいか、あるいは子供たちの夢や希望、さらには、新しい学校から見える風景などを自由に表現させ、それらを集めて谷川先生に郵送し先生に見ていただいた。谷川先生が作られた歌詞の中には、子供たちの夢や思いがいっぱい詰まっている。平成28年3月には、谷川俊太郎先生、池辺晋一郎先生をお招きし、大洗文化センターにおいて「南小校校歌発表会」を開催した。当時は、まだ大貫小と夏海小と別々の学校であり、閉校行事でそれぞれお別れの会を行っている頃ではあったが、4月からの新しい学校の校歌を一生懸命練習して覚え、校歌発表会当日は、2つの学校の子供たちが息を合わせて、ホールいっぱいに響く大きな声で南小校歌を斉唱した。

### ③ 特色ある教育活動について

特色ある教育活動としては、校舎が中学校と併設していること、さらに一小一中体制（南小の卒業生＝南中の新入生）であることを強みと捉えて、南中学校との小中連携教育の推進に取り組んでいる。

◇兼務発令による特色ある教育課程の編成

南小教員が中学校で指導を行うとともに南中教員が小学校で指導を行う「相互乗り入れ授業」を実施している。今年度は、小中合わせて7名の教員に兼務発令をし、小学校からは4名の教員が、数学科・英語科・家庭科・特別支援学級での指導に当たっている。また、中学校からは3名の教員が、社会科・理科・外国語活動の指導に当たっている。これらはいずれも、時間割に位置付け、日常的な授業として実施している。中学校教員が教科の専門性を生かして小学校の授業づくりに加わることで授業内容が深まるとともに、小学校教員が中学校での指導に関わることで、子供たちがどのように成長しているかを、直接、自分の目で見て取れるので、以前より、中学に進んだ後の子供の姿を強く意識するようになったことが成果である。

◇5つの研究部による組織的な小中連携教育の推進

開校2年目の今年度は、両校に小中連携コーディネータをそれぞれ配置すると共に、5つの研究部（①学び・授業づくり研究部、②カリキュラム研究部、③特別支援・生徒指導研究部、④保健・安全教育研究部、⑤学校事務共同研究部）を設けて全教職員が一役を担い活動している。5月8日には第

1回の合同研修会を開催し、今後どんな連携が図れるか、全職員でアイデアを出し合った。管理職が作成した計画に従って連携を進めていくのではなく、ボトムアップ方式で自分たちのアイデアを形にしていこうというスタイルを取り入れている。小中連携を組織的に進めることにより、小中両校の教職員の主体的な関わりが増え、学校の活性化に繋がっている。

◇小中合同の校内授業研究会により教員の授業力向上を図る

今年度は、6月と9月に早稲田大学教授小林宏己先生を招聘し、小中合同の校内授業研究会を行った。小林教授は、南中学校の研究に12年間以上にわたり御指導くださっている先生であり、毎年11月に開催している「教育実践研究発表会」で御講演いただいている先生である。先日の9月授業研究会では、小学校は「道徳、外国語活動、算数」の3授業を、中学校は「美術、社会」の2授業と、合計5つの提案授業を行った。放課後、両校の教員が南中学校に集まり、5つのグループに分かれて研究協議を行い、教師の授業展開や児童生徒の反応等について意見を交わし合った。最後に小林教授から一つ一つの授業に対して細やかなご指導を戴いた。このように、教職員の研修においても、小中の教員が一緒になり、お互いに高め合っていくという体制ができつつある。今年も南中学校と共に、11月23日に実践研究発表会で授業公開を実施する予定である。南小・南中の日頃の取組を、一人でも多くの先生方に見ていただきたい、また参観者からのご批評を賜ることができれば有難い。今後も、小中で連携しながら研修を深めていきたい。

### ④ 社会の変化に対応した教育活動について

◇タブレットを使ったICT教育をスタート

今年9月、町から南小へノートパソコンとしても使えるキーボード脱着式のタブレット端末が55台配備された。子供たちの学力や学習意欲の向上、並びにICT機器を学習道具として活用する技能を学ばせることがねらいである。まだ導入後半月しか経っていないが、9月22日に行った算数の研究授業では、6年生が組み合わせの問題を解くために、タブレットを使って図や表を作ったり計算式を立てたりして、子供たちが意欲的に学習に取り組んでいた。子供たちは操作に慣れるのがとても早く、算数の授業だけでなく他の教科でもタブレットを使って勉強したい、と意欲の面でタブレット導入の効果が見え始まっている。今後はより効果的な授業での活用について研修をすすめていきたい。

◇ALTを大いに活用し外国語活動の推進を図っている

大洗町では、小中4校全てに、それぞれ一人ずつALTが配置されている。本校のALTであるBrannan Ewan Carl先生は、イギリススコットランド生まれで、来日して2年目の先生である。人との関わりが大好きで、子供たちからもたいへん慕われている。本校では教育課程を工夫し、1年生から6年生までALTが加わった外国語活動を実施している。平成32年度からは、小学5、6年生に教科として「外国語」が、そして小学3、4年生に「外国語活動」が新たに導入されることが決定している。9月22日の授業研究会では3年1組が授業を公開し、学級担任とALTが指導者となって、好きな色と好きな形（What color do you like? What shape do you like?）を友達にインタビューするという授業を行った。子供たちは生き生きと活動し、楽しい授業であった。今後も、子供たちは英語でコミュニケーションすることに楽しさを感じられるような、楽しい外国語活動、外国語の授業づくりに取り組んでいきたい。

次回例会 第2149回例会  
10月5日 12:30～ 於：例会場  
卓話 「米山奨学委員会」  
今月のロータリーレート \$1=¥109

【今月は基本的教育と識字率向上月間・ロータリーの友月間です】

四つのテスト 1.真実かどうか 2.みんなに公平か 3.好意と友情を深めるか 4.みんなのためになるかどうか  
会報委員会 土山 大輔 海老澤 一夫 土子 吉久